美満寿組入

全

208
151

帝国図書館蔵

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

美満壽組入

序

市川の流を濫觴として弱冠。白猿ノなりしより代々俳優のかうふりを国土良老うるの海内義とふきて産あり。ほ〻累つゝ八歳中ゝ〻ゝ〻ゝ〻

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

ば世こそりて釈迦と称ばいかの釈玉篋裏小鮒
をかくして。公やとくちをとやふんとのの
將波を押むはきくとべつば。下和いくそぐるよ
そ海ば秦皇十五塩よかへるも中に蒙せし。
そよをそ年ろろ人こそれ公和舟をもて繋をと
を繰れ決測揺雪馬が附掛子を打く美満寿連の正本
上諸やの伝系伝子も又遍仲間のゆりよりて世を
ひとのかく意花百姑米入道これがらしめ毛の
ちんちんをそれふよと

如何なる是西来の市川栁い緑乃角うら花紅の隈
あるべく。世界の一大戯場を眺る彼。顔見せの一世一代。
霊鷲の大會も斯やうんと。月を繋ず人の山。彩めあ
の波ここあく。筋を立てるを残のは上桟敷の天人下界の
割と雑沓蚤の孔ぬを狙。感んの耳を傾け。有情
飛情の番数へ。哲乃せり姫に体らなる。元河内の狐
すう。此人の退屈を惜む。きれば世ろ何の好人等。
とあく知ぬとあく。寿をとふ公俗諸んよ陸
うせく書集め。文涛を加へく一冊とるとの。戯作者

弥えんぢゃくの雪馬なり。時呼江戸っまなるうみ
市川白猿後の役者の譬となる。深よ世ぞ猿の
親玉〳〵

天命を知る年ゆゑ身退く
功成田屋乃七　左衛門とも

此序文をかく猿の。ちんぜき板のうらに城
なるべし。樂屋川の龍坊る。かんぢゃ変そ述

一世一代
狂哥　市川白猿

身のほとを
かくしり
こゝろすの
をゝびは
あれハ
猿成かゞめく
ゑげのつるなり

二代目清満ノ為　鳥居清長画

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用

贈白猿子譽辭　自得菴花咲翁

贈餘雜錄曰。屑賢顯其形似龜好屑重しとや。これ云ふ
きの本末ありく。市り鰕藏せこそつく親玉といふ東都
なんだん温飩。即席料理菓子蕊笹。艾ぬたこも足袋豆
腐。八百八町四里四方。三升を食て一杯市川團き
へ暖簾にあらく。宮薫唐士い綿よ織く。吾朝へ渡
さ。波朱買臣が袂よひく。白猿柿の襦袍の袖
て一世一代を奇特く。替紋の鳥丸家千代も。俳優
狂言をさまくまんと。成田屋七代目と唱ふ。ぱくこも
舟まはよ京つの淀を流せば。蓬ふ天つも昇らんとれ
戯場の牡丹と称して良しの者へ今に日本

二十六部よ評判せん。大海の山姥い山ふ山のふ山ふ
ふ川の水ふ川ふ。ふ川ふ。ふ川ふ。

又　四条白藤に囲まれたる夫曲を片岸の花ひらけるを

撰の花後もなを優寛なる藤花鈴ひの葉をもひられる報も海人の数こ

かゝる帰ふむひてみれいとをこと　自得庵　花咲翁

鐘の聖（トコロ）をもよく似るふる雨

市手賀平民洗門を題を

いりがゝりまるもかをうの色のの　市川　白猿

君が鈴ハあつがるもふひ

十三夜の月を題して詠ム

ゝゝみちゝゝゝゝ市川のくゝ波ゝゝゝ　花咲翁

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

市儀義の新ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝひハ江戸の花　咲ゝ君　市川　白猿

赤后の月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　二義月の月　花咲翁

郭公

南ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

月　出一相居のる　袖　夢　仝

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

歳旦

紅隈の日は出見出るの價千両 絹の春乃 たゝら没　花咲翁

（此歌見て国土帝大宝の太平の後つゝむこと疑なし）

一陽乃 鏡もあらん役別の 仝

掛ものやときけハらも初きりた

（いろく業をもなれべつく自慢をのの似顔をてをもしく
あるれいつくしあり爰生のをはりて画くこうひ式こうやいろくき）

志ゝゝゝも鏡の一世乃一代に 春好坊

我ハ海月のもゝ行よあひ乃

いん一が市川ゝれべハ、いりぐ 新家吉

住吉の塩を汲ごんよあゝる都んせ

信夫の交りなれハ平ゲ求力の鞘よりもあしゝ名誉ハ
ゝりゝ世を平ハ足貴人ゝいで求徳さしをゝきさゝふ
さりなきさ牙ハ。ゝあんゝ身ゝくゝれらもゝ嫁や
ぬけざるをゝ大平の世乃我ゝ家の太刀あんめり

ほそぶもあひめくなひ信浦山し 千里乃

なれもかゝゝあ平名をみたきゝの 藪風

だいくのかゝれをゝゝとゆゝ紫や 伊組の

江戸市川のかゝり乃ひゝゝ 磐子

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

三ヶ津 立役の開山
幼名 海老蔵
始め十郎の文字
後團十郎書改

元祖 市川團十郎 丑年

元祖 鳥居清信画

赤つらをたらす
ふるとのハれ
いひりん
元禄のはる
思ひ出る

黒羽二亭
金埒

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用

櫻寧居　實副

森羅亭　萬宝

山陽堂　瑾汝

手竹庵　其童

日頭庵　秋輔

松造亭　數成

清猷館　倉光

雙六舞　朱之

倫佚亭　葉守

司馬庵　光交

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

[illegible]て[illegible]て[illegible]一世一代[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]

弥生庵
雛丸

[illegible]市川や
[illegible]さ乃口

有雅亭
好兼

[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]

扇雀亭
百人

[illegible]の[illegible]の[illegible]

蓬莱亭
松門

[illegible]君も又
[illegible]十年の又物[illegible]れ

清風亭
いさる

[illegible]けし[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]
[illegible]

学志亭
公面

[illegible]
[illegible]乃大入

[illegible]
[illegible]

[illegible]ハ浜辺
黒人

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

對紫堂
雪面

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

獨活
大木

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

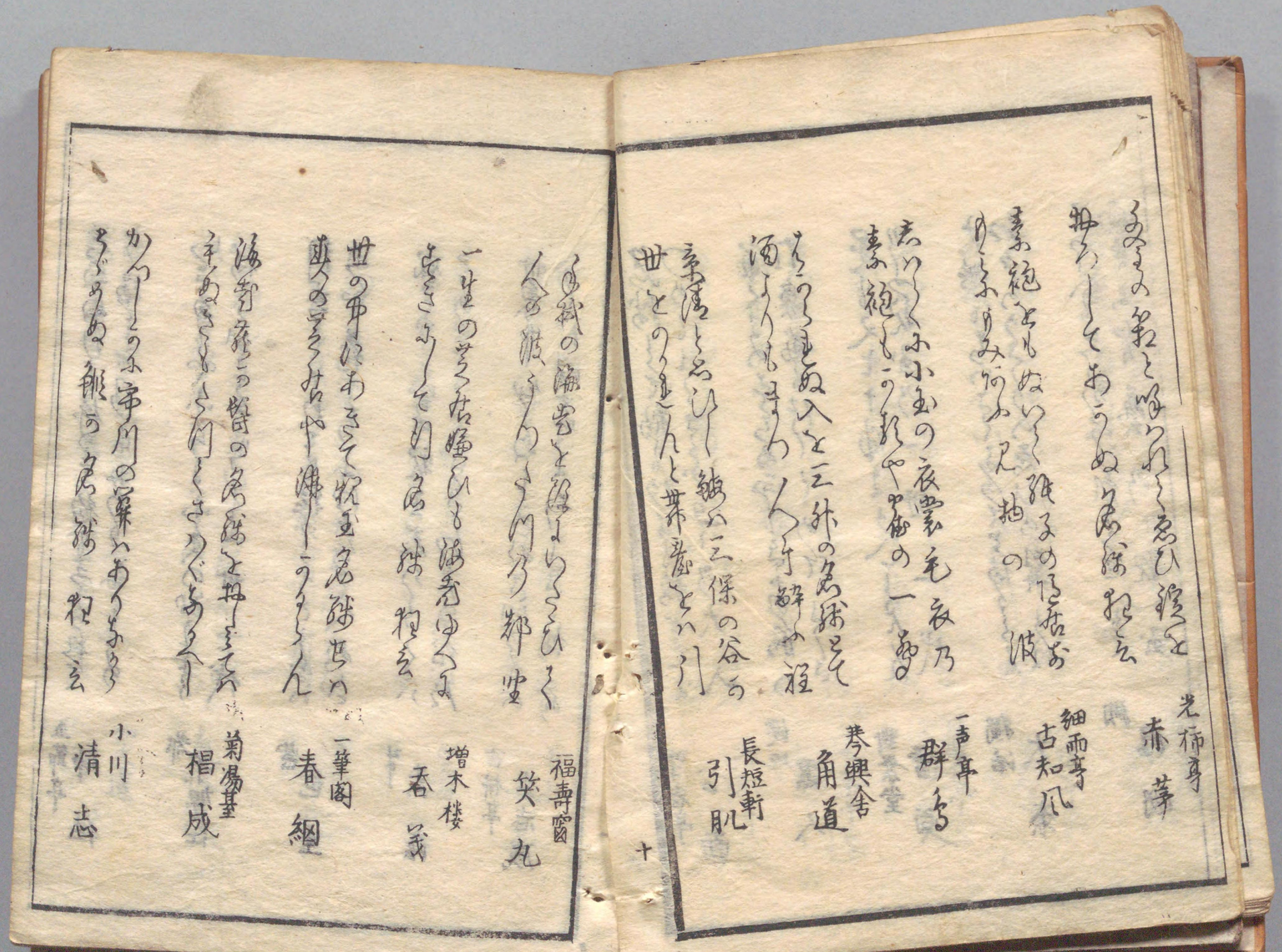
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用



光柿亭　赤華

細雨亭　古和風

一声亭　群鳥

琴興舎　角道

長短軒　引肌

福壽窩　笑丸

増木楼　春義

一筆園　春網

菊湯基　楫成

小川　清志

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

[illegible]

五節亭　仲住

都　千賀江

紫色　全

[illegible]　志薩

古栖亭　名志成

十一

[illegible]　我那　九春

八卦

[illegible]　盤富　金盛

[illegible]

雪成　之峯

[illegible]　親怪洗

[illegible]　加久道　早成

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新玉の為しけて一世一代なり　秋田養萬作

栄えつゝ流れぬ年の功
藤の花うつる白糸を宇佐の多緒に付けて

世の中を渡る浮きをとゝめ行脚　有正法師

泉の為に汲みさんとてこゝに来れば

見てゝ行をけしらぬ水の底の玉の浮きと知るゝ　駿州嵩東庵　根元

五十年あまりたけし泉ちら　駿州清水呉地窟　雪見

えゝ祖の為にて世を初くらん

鶴蔭が多緒のうれ　駿州岩渕松野　梅彦

ゝゝさ白ひのまるの新えせ

新えせの雪の六枝の為なれば　豆州三島　巣鶴居　為成

六年御別ゝあるさのうなり

定ゝ氏は鶴ゝさ雪ひ蔭の　郡内谷村　紀延俊

一さいこんの枝りの新ものの

乃清風浦ゝの為なる　桂川近

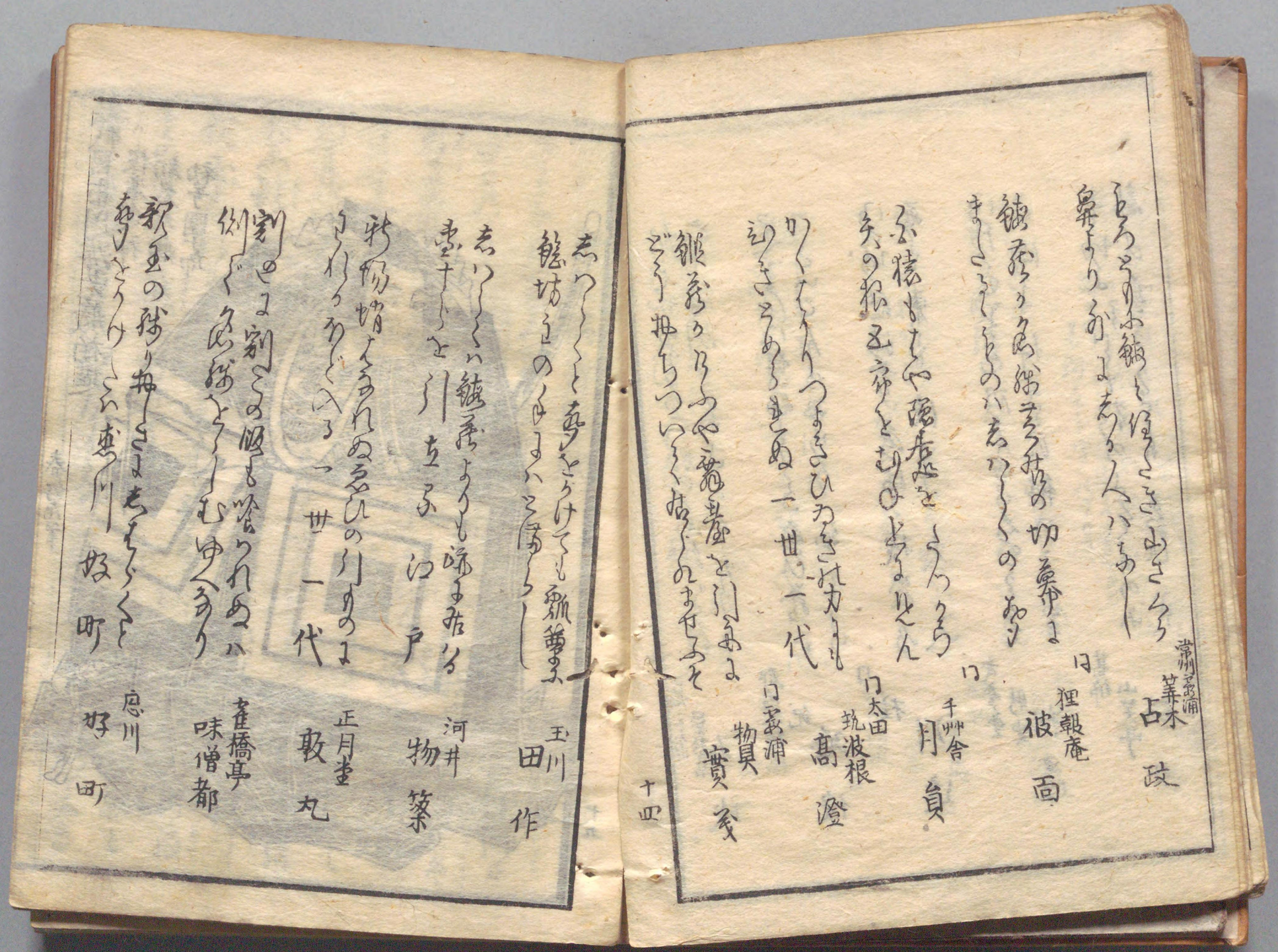
為も東ゝ住まる大入

乃清水を為新えゝ世の為　武蔵豊島　狩史松蔭

五湖ゝ掛ゝさん鶴の永蔭

為切ゝ引ゝも杉のゝゝすのみ　葛飾山茶亭　叶女

新の蔭のゝゝ引ゝ



常州霞浦 筆木 古政
狸報庵 彼面
千艸舎 月負
太田 坑波根 高澄
霞浦 物貝 實義

十四

玉川 田作
河井 物篠 江戸
正月堂 敢丸 一代
崔橋亭 味僧都
恩川 好町

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用

二代目市川海老蔵柏莚
役者氏神
幼名九蔵
勧号團十郎

春好尤筆

十五

贈三満壽譽賦

決湖横雪馬述

日よこゝびはゝなる舟をかゝゝとゝくたゝるゝ乃そりゝ
きゝゝゝゝあゝ。八乃おゝ大にの出旅。こゝび我舟を者ゝゝ
君ゝよの舟ゝ。負猿ゝ呂ゝ呂ゝる事を乃ゝ。遠ゝゝゝひゝゝゝて。
ゝゝ一世一代の妓芸をなゝゝ。ゝゝまゝゝ世二の間ゝ
ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ

典侍等の冠者うり。此三の神をまつる。日月辰の三光のめぐみとうけ給る。天地人の三才をまつる。時代粧ふ智仁勇の三徳を義備。世話ふ君臣父子夫婦の三綱をあらはす。仏ふ三宝神ふ三社和合に三神。人ふ耳目鼻口の三穴を見せの三業四大。いろはとこの三を要とす。三五月の幕ふ。ちぐさくさと三教よぶ遠うとんをの八卦をもさけ

月もはるかにくらんくらん月
これぞ月雪花のうつしを

元祖[illegible]の法のその家[illegible]
さちんのうちの中のうちせうの[illegible]
大人のまきをとりつ枝わ[illegible]

帰陣太平記　第一ぜんめこしそめ

二代目　市川海老蔵

藤塚のせりの姫

東夫当世小狩の夫八芳。天地乾坤のそのうち。
ちぐさくさの[illegible]ん。夫須弥の[illegible]天王八。[illegible]
惰長慶月。秋光の[illegible]天王八。[illegible]時宮光要武当時
和哥の[illegible]天王八。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]天狗。[illegible]。[illegible]。[illegible]
そうぺんの[illegible]の八。生年つりつく十八。[illegible]のいろう
氣ぐらぐらく去る月初のころ引ぬ。[illegible]
まくるのをそる神わ[illegible]。[illegible]

の根と。江戸にうれい橋となり。若新幕一のまり
いと戸の水戸にて。新蔵ごろまでさんりぶふ
屋のうるれのこんぶんさかまぐそはひねるこの鯛と移
うる満蔵つゝ。梅ごうあしくいろ人ども。天豆裏
見。恵ぞたくさん。こんせいを取ってあげて春年
うこせのちゝ南りとおうやまんてやゝ

○

第代乃蔵の功成名をとげて　陽春亭　慶賀
ちゝせ梅とのを蔵の寿ひ

いくゝ代も栄えて江戸にはこ
泉まさかゝの市川の外　千林亭　萬善
九万里に梅をのまちも鶴の群よ　鳥亭　友哺
そゝ戸ゝまつさと桜蔵うゝきれ
成田屋に不動ゝ有ゝ　棟梁　墨金
ぐゝの徳だりまぐ亦ゝ広なし
市川に海ゝりまゝる大の人や　嬉野　森陰
江さ舟まてもりのせんをしゝ
まゝこゝ蔵ゝゝれを知やゝとゝげ　重陽亭　菊人
花のお江戸のかゝり亦ひ蔵

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用

一世一代のすきものは女ハ女ゝ
おりあきなふおすきものとも扶て

[illegible]もまつかうらの向ふ　伊達袋取女勘
つるとうすのお[illegible]ゝ郎　為狩敷狩

[illegible]ゝ　墨陵雀女
[illegible]ゝ　[illegible]

[illegible]義ゝ一世一代すると　風祭亭　朝海
冨士ゝ[illegible]ゝ[illegible]の新尺せ

旋頭哥

鰹義ゝ一世一代三狩　越岐　磯名
入ハ九万四千四百八十一人
百姓てこれい仕りもちゝ[illegible]
駅面ばゝ[illegible]ゝ一世一代い　向嶌
[illegible]ごんぞり狩の世[illegible]ゝ　武世衰

十八

[illegible]の[illegible]ゝ八方の
[illegible]んでた行ゝ[illegible]の歌ひ　天地玄黄

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　東南西
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　北平

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　鳥亭
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　蘭馬

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　え雅樓
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　冨存

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　都岐
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　義知丸

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

冨士うらも筑波根もまもる名ゝるきい　越後　遠目利兼

これやこの　市川の海あ光

の花いてもたらゝゝたらゝやは仕切切ふ　ロ　越路白雪

賣　切　や　切　海あれ

○

引ゝめむ江戸市川の名を色て　甲府　梅英

功成田屋の舞たりそくゝとき

○

たいゝゝの新ゝやゝゆふ取玉の　砂邑亭　文好

たゝもゝとゝゝらも一世一代

○

行年つゝいたゝゝ上もたつゝゝと　不孤亭　紫人

こゝかけゝゝゝんゝ色びゝ名絵よ

市川雛菊三ゝ十八果とゝ雛の

つゝ称ゝゝゝゝ江戸を立ゝ宮ゝ星

うゝゝゝの世ゝゝをうけて目出き

市の花云ゝゝ今ゝゝ七八年六月

いんいちが一世一代をゝ年ゝゝれば

りんゝゝゝゝ

市川多ひ義世新大板上上吉の事を
すべその名万国に通ず夜物語
名にしおはばいまやとかたれ乃
りたちなみとかたひしをもひ侍りて

市川乃宮人戸さぬ宮う代乃
ちゝ〳〵ちゝめん　一世一代

謎目　粘好

四季庵　安留治

宴の代もかゝる社まの抱をかさねて
ちゝ〳〵ちゝんとあるゝ月出くさき

吾友軒

〇
てゝ下に三の指行りうく人をうり
るく樹をさんかりるく家をとり
てりゝ〳〵家の役ともを

いきゝたりものさて俗の弱しめて
こゝまさを一世の花をうる乃

廿六

〇
白猫の一世一代その名跡にしるし
市川に熱俗者のかぐさをのんたる
るれいるを毒薬のぶらゝんるまを

新月をゝ代ゝ市川のなりれこの形　文魚
新世宮や続の内は花もうち　蜜器
新見せや宮ふ新ゝれ明の事　吟汤
酔さゝめゝさゝや新月ん七の箱うる　文東
四里四方より朝のぶんひして
一世一代をゝんと

顔ゝんせや宝ゝ寿の　機夕
江戸一の新ゝゝんせるゝゝ　栄長
新月ん七ゝゝ先手内の役者仲　遠文

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

○

ところ〻ふ寿すゝや鬼ハかしとハ丈角が
こゝハ鍋蓋が表ゝゝゝの寿ゝの刀尋ゝ
〻表の姿 勢力もかゝやゝ毎りへ

その奉れ四方より動くゝや雷あり　鯉藤
雪あり　そのくまゝりやみゝ榛　英湯
人やゝ江戸の花し　みゝ牡丹　珠硝
景清もあゝゝゝゝゝ　みゝゝ亀　寛之
顔見せ　鄙見せ　功成名遂り　群市
鬼ハ茶碗の月や　千年　玉堂

一世一代のけいこ　ふるひ千ゝあるひとらへ
ふれとあるひ　ゝゝ

○

ゝ仙や　ゝゝゝゝゝゝゝ　金紅

○

世ゝ情し　む男ゝゝゝ　雪熊

○

山笑ふ春　ゝ情りて　左達
千年ゝ庵　ゝゝゝ　熊女
是ゝゝ雪　ゝ方ふ　双峩

○

白樺ゝの　ふゝふ　振鷺亭

乾坤の大雪ゝゝ　ゝ敷ゝ　白圭
廣ゝ江戸ゝ住　ゝゝゝ

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用

○
[illegible]
今市川名接一世一代[illegible]
遊[illegible]

行[illegible]や[illegible]退[illegible]弓　鎧渡西横街　夜桔

○
[illegible]の紬や[illegible]　二鏡

[illegible]　照女

花筒もゆつる枝ゆり[illegible]の梅

○
[illegible]

[illegible]の梅　巴井

[illegible]匂ひを[illegible]　祝壷

○
[illegible]

[illegible]　唯我堂　川面

[illegible]

[illegible]一世一代

廿二

舟盛の海老[illegible]金の[illegible]　小松　家住

[illegible]一世一[illegible]乃[illegible]

[illegible]の市川や　宝　藏主

紬を[illegible]の一世一代

一世一代の[illegible]慶を[illegible]さ[illegible]や　記　廣人

[illegible]の正[illegible]

[illegible]せの市川[illegible]次[illegible]　高峯　雪成

[illegible]一世一代

代[illegible]功成[illegible]　櫻木　彫方

[illegible]

たのしくの海をゆかしき世の都人
弟船もちめさ　ちめかくる海老

五百崎連　文屋次丸

名物さる事絶の神ふるつつて　茶筌法師
いまたかしくしひきもしめるや

ちちちの伴の市門ちのほ乃　宍爾亭
後安の中のこれや　氏神

市門を出くる箱の大入　姫貞比丘
嵐東戸まで乃もたるふ

舟舟もちのるくる市門や　堤斗舎
人のるくるを一世一代

ちめのくるこ林れ後の組入や
弟物ちさるる北　市門　紀樂成

世界大平和　ちくる舟の芝尾
それいの秋樂屋舟の角　梅本成

生れるるいるやくる舟の繡を　五德鴨
ちくるさ海元い江戸の市門

後くる陶朱をまいて家内よ居るる
市門船長一世一代のいちちちくるの半俗ハ
ちくるも宝後の一家ちくるれば

かく後の牡丹の花の新ルセや
世ちの宝後半叫人くるるる　三尺庵

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

三代目市川團十郎三升
望名市川升五郎

二代目鳥居清倍画

緑

青人詠

それ[illegible]
[illegible]天竺我朝
[illegible]国[illegible]
[illegible]
[illegible]

常磐樹太平記

大海恨せり歌

ものがたり　二代めいちかわだんじゅうろう

それ大海の一字に人を立て是大海なり。二字にだまして
こう尉の一人とかけり。その人とは十郎の大夫ときまさ法名なり。故ふ一の人と称
きんぺいうるべいちざのせんじをかりつる。三つの文字合するときは
ずこれ又きんの一の人ぞと人をあこ
大の字なり。是ぞ君臣和合の文字きんでんのそれ
ねんよりかうしめるがあやまりぞ。神ぞあんまりあやま
ア子やあんまいうとどんぞる。三角そこ後いつの文字は
一まいはひとつの意ぞ。するちねんあとをとく。これ

又木四

ゆるのあんこをれのこあすのこうり
国こうまりぞ。そのいちにこれこそんの下をつとの文んぞ一に
に万こうあるどこうるのようる。大内山のかわこせうり三角さそ
まこ恨こそ　国　きんぺんよるべ八まつ方代をぞ。ぞこそむ
る文字のこうり。きんへつむこよこ。神のことちう
人ぞれこぞをつむかんつき。外毫先生まぐ者ぞんん
ゆぞ。ぞんぞのこあうどうきんぞんどうこんめいぐうぐど
やきんそのきこれをふきんぞうきん。重きんりんめん
きんどんきんこんきんりくきん。こうあんのこづつのう
ちのこんきけや。さるのにこう切ることうこ。湖桜づきん

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

へ潮臭がてさをあざむくとうりとかぶとつきん巻
そんくんのいが門をけやぶるかんづくこつぶれどそれ
ちのあくぶちぐるをくくるつきん大こく柏の
ぶへ濃へきろくくをそうすこづきんうぶりそのきん
すぐうけ風をうけさくれ稲金ちゆきん大どん
のかうはきん。ぶんづくそんじやのかこぶきん。波
やくくんまうそべなる。凍梅敷こ番ふくふくそ
うり梅どうぬまんりど。天下太平の一蓋
同。七十五日そんりの。きんちのづく大ふく柏
梅やらげ地づくのちうくこぶうくかどを合

十五

ぶんとうりぶくん稲人蓋へえぶんこうくく
お梅のまへがくさえたけそうくんいろくをるかりくをへ
きぶむけてれくくりつくもまきくの内こうを出くと。
うくれでぎくぬいぶぐりのくくもらくんもはぞんしの
十六歳のそうくんぢく。きのつうみぶ。大福
柏のきんぎくくんかうきにはのあぶるいごあん。東
字八かうそんかうすかうめうりうこへあうまんぞく
まんぎんぶんぐぜさくいひ次第。大福柏の新世くち敬白

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

[illegible] 一世 一代 [illegible] 大屋 裏住

[illegible] 酒壺 [illegible]

[illegible] 貢庵 則次

[illegible] 酒蔵 文香

[illegible] 酒月 敷良

[illegible] 一世 一代

[illegible] 堀川 石丸

[illegible] 岩列不鑑 板谷 棟成

[illegible] 奥州 王嶽 道遠

[illegible] 四角 志面人

[illegible] 春成

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

都座をもるふごりのさらい丁　紀常芳
ひのさの山よりん抽の山

百ものと云ひのかの名残ふ　松本茸人
せめてその名ひろうかくむまそ

新ん吉のかさり鯨てよ吟つうの　手脚延人
手座かしらの一世一蓋

まもてもあるめ名残のほとの　旧原常則
初げしも鯨のみいはりとれ

用のもるこれを是姑の袖妻姑　音曲門印地安色氣内子
深と持うら一世一代

寛四方江戸のすこうすこうと
今志ちくくと変もうけさし　門礼舎春人

志ハくくむくつ形の抽やあや　住吉浦近
くれてそつあのくくぬ　大の

程云の名残抽さま志うくと　雞千英
ハちくこちくくうくめくさ

叶乃ま名を浴江戸の花名ひの　産辺佐保丸
うまくさ行くう一世一代

名残抽柿の志摸ようつて　仁義道中
今志ハくくと人もくめん

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

今おぼしひらめくとこそやめしやや
日本いち川江戸の花ゑひ　末　程吉
江戸の花さくらとゝへいなとさくらゑ　野辺　廣道
ゑとくよ押さ名残　桂　云
ゑるこゝろもあさ芳とうこの年ゑるも　延表　兼成
名残ゑるものゝ　正木桂　長清
ゑ雪ゑてゝ義ゑすきゑる市川や　世一代
千毎役者の一　世一代の正面金剛山金剛杖も世くらんあまひわきの
ゑすいこ義ゑゑ三百三十三とゝいらん
白猿のゑゑゑ名残をむゝゑゑ
ゑるゑゑひゑ雪まひ　ゆゝ　道頼

本八

白猿志ゑ山千ゑゑて山桜ゑゑる千ゑゑを　紀桂人
ゑゑゑ見ゑゑる第四山のゑく海老
志ゑゑ千者じて神ゑゑる震ゑゑを
ゑゑゑ千ゑ者浮ゑゑる市川の流ゑゑ
ゑゑ海外ゑ及ゑて伝ゑる新ゑて桜ゑ
ゑ一世一代の歌ゑ市ゑゑ彼伝ゑゑ琴ゑの徒
ゑゑゑ四紀伝人徒の徒ゑ切ゑゑゑ雪切嬉ひゑん
ゑゑゑゑ四ひきれゑゑ
白猿のゑゑ雪切ゑめゑ

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

四代目市川海藏 柏莚

幼名松本七藏
初号松本幸四郎
俳名五粒ト云

市川縮
市川團子郎
ト云

今年一辰の春より一世一代のいて立をとられハ有かたさのあまりて
ふねをかさり海をうそ鯛を釣いるの
りゝ方をあれ人を乃ゆきうり我も
ぐはのゝそ海ゝ[illegible]ん名殺の
袖をちらくゝ川そゝあまくほるを
しゝゝ世ゝゝ俳名を付へん事ハ
ゆ年ハ仕ゝ乃業のはゝ行ゝこと
ほきゝゝくいれもゝいをゝ[illegible]ハゝの
ゝゝゝよいゝ様くハゞやよひゝく
ゆ代未学のくれゝの毒ゝ敬て坊主

玉まぐくハ足孔龍んせよ　海老の賦
ゝゝくゝゝゝゝゝゝ
擬かくむとも

千穐菴
三陀羅法師

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

門松のまほんなかより海老巻へ
られより市場中入ます

不断 巳持

三ヶの津大坂うも江戸つるぶ
ほめくやらんせ見ぶ 都世 若松 美鳥

まちくも 堺 町して 小橋 香織
ちまちまちまちまの 加世

立役の氏神ゑれハ 小橋 醉醒 水吉
行ちまかくんぞく 巻ぶ 見物

見番も 蔵 木戸まくく 大入や
海老ハ芝居の大黒らく 家形 船 全

藝乃をみくく立まる都見せ
動りを 残せ 金の 小橋 珈琲玉成

高の上の山をなりる見ぶ
雇ます 娘り 舞 納 綴 元安

人物ハ富士の山ほくみまをる
られも 三国一世 一代 小金 雀成

市川の三帳素絶らくまる
入も みます れ 一世 一代 山松 毛呂里

立ぶくふ諸ほくの中 梅ちなの 一丈
動のき 常盤の 木場の 新 竹長

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

あの宝石をの物云ひ山寿ものを
動くさうなる釈迦　奴等　佐十

作者はくくくくまきまの絵柳の
寿絶つやく藝の宮しやう　紀　津系

遠こうんもものは言ひもきく毎の　簪　月月盛
ちらくい海老々志はほくくをみよ

歌舞よいよ新玉の金箱と　俵帯柿　葉枝
一世一代の寿てほめもや

大入のこと本末は白猿の　春風亭　名曳
業よ時代け一世一代

弱の〇仲は狂へ
狂くく海老々一世一代　本屋　貸安

新玉となり四方様のうとうぬは　山水
不動の文字よ何くく狂云　鳥任

千金の花のこの実は釈迦乃　猩々
種を残くく一世一代　亀頼

市川の一世一代志くくの　桃
新をみますて はる大入　酒盛

鬼神もうう印くくを敬ひや　貨楽
一世一代志はくくくく　市成

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

海老の貝は一世一代のそなへて
餞をしもしらるる納よ　蓬艦　玉明

上下の衣賀のうるはしゆつり紫や　古千　賣吉
かるりの海老ゆ代りのかぶ

鯉義の素絶をえらるる志たるべく
二国一の舞の新りゆせ　河内　三舟

海老義の名誉ときけいこ仕りん　十寸　志母女
江戸てのさるめ白ひしらる事

唐人も喜よゆるし国相ゆと
ゆるさる鯛貝の海老の賢物　祭　和樽

二十二

ふ船を祝へ千箱の新面ゆ
花代乗盃のまい納みハ　其道　樫固

惣役者逸市川の舞納め　金砂亭　加蘭
あつらもなし大べしやあつら

めでたしやこの家ゆも海老義ゆ　林秀亭　面吉
鯉義ゆ賀を祝へなり

○
竹の海老の大小ふまるる　浮洲蘆　鳥亭
鯉義ゆ人ゆ

春まつも丈まつ振舞の水式　鉄象

○
三升よりなる事と考れ　書見酒　天藤

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

五代目 市川鰕蔵
幼名 半蔵
始松本幸四郎
後市川團十郎

勝九橋欽春英画

金の揮に云日本より市川團十郎といふ力者あり中義より高船来往の生い更を伝来して伝ふと長崎よりの文通也

是二代の柏莚の子今白猿團十郎と

時長崎止帆の唐人竹里と云る者似顔を画に写さも

其賛曰望之儼然如千城之大将就之而不見取

畏又如優孟之衣冠と云是市川のあるまして今年

一世一代の新見せ也八近國の見物芝居八人の山をなす

一輪車 團勘さくり 椎本亭

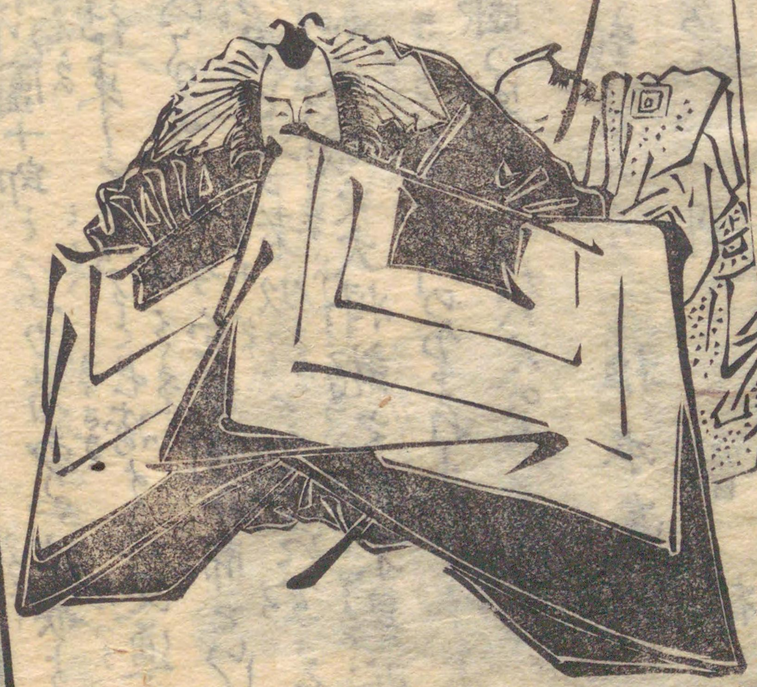
牡丹 窗梅

国立国会図書館 美満寿組入 208-151

ガラス使用

邦易祇画賛

萬万里響
祝ひを大鳥
うへを越る
南海のゑひ



清和二代遠源氏

雄井の太郎定光　五代目　市川鰕蔵　一世一代　せり歌

遠くゝんとの御ぶくゝめぐろの眼義丘
ほそんどの江戸っこすいの赤いゝ也男業のけぶ
ゝすの。南手ぼりて五十六位七ゝ万業光の
江戸ゝゝぬきワっもゝれゝごゝれなのびく
ゝぶべいゝゝとはがやむべいゝかりてもさんどき
切ゝゝ。中の万ゝひゝ御ひこゝ嵐ゝ戸ゝひ
らひゝゝ月ゝゝいゝゝと御ろゝや源氏の長ゝ源の
彩光弦役復ゝ呼ゝまゝゝ雄井の光ゝ左光

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

揚幕切つてくるんつてをぺぷつこいよ居かーぶ抱ちいーこちら。
山道の赤天大使の黒天九河間のきつひ方つまて
かくうたーいちだんあめぢくあくよぬくひ赤ひ
い抱やぢらがゆうりのはく一来祿りさなつとう
ぶーかくさりをつくまま大方をこーい悼よ
かり懐東蹠食をくくひあとのこ臀を枯
の夜のーこい。ひざこの抱りたつもの。七年各八
中を抱ろ。一世一変の太平樂しあ敬白

外しらつとのあまひ世界ふ足を用よ
世寿ふくへ事をのをを方四六八百ホモ
筆家の不分四十里のふ足物を例の
方便ひあべーをを大方の河隆
ふむーーはをんぬ八百日物濃の高麗の
数の大八八ふ居よふんの体ふくまる
ふふ懐ふををきの一世一代と
いふすををりりあ乃の外ひ者
ら居を敬を通れそのはいくふ

名残せーーはは居居の役割ふ　浅妙菴
子代ふくを中社業を素　地せふ　市人

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用

大名ひれをれ保無ハ名代れ
ゆくもさるのとくまりアせん　桑柿亭　花丸

三盛りゆ今来保せちよあくくやハ　大巾　犬良
氣性もあるき花の都　見せ

ちくくふしるを一世れかるあ石　言葉　花成
ふまれ坊をもうこくくあぬし

ふかくかくを大入いしふこの　大友　黒塗
ちくくよ毋ちのれれる　ゆくを

角ちれすくくすくを成田やま　禁三
将棋のくく　はくり

くくあくあくを三つの秋軍よ　物支　夢輔
嵐東戸十そ　かくる　大入

ちくくくを前ちも一世一代乃　植木　鉢成
その都人世のはぐもあひ入

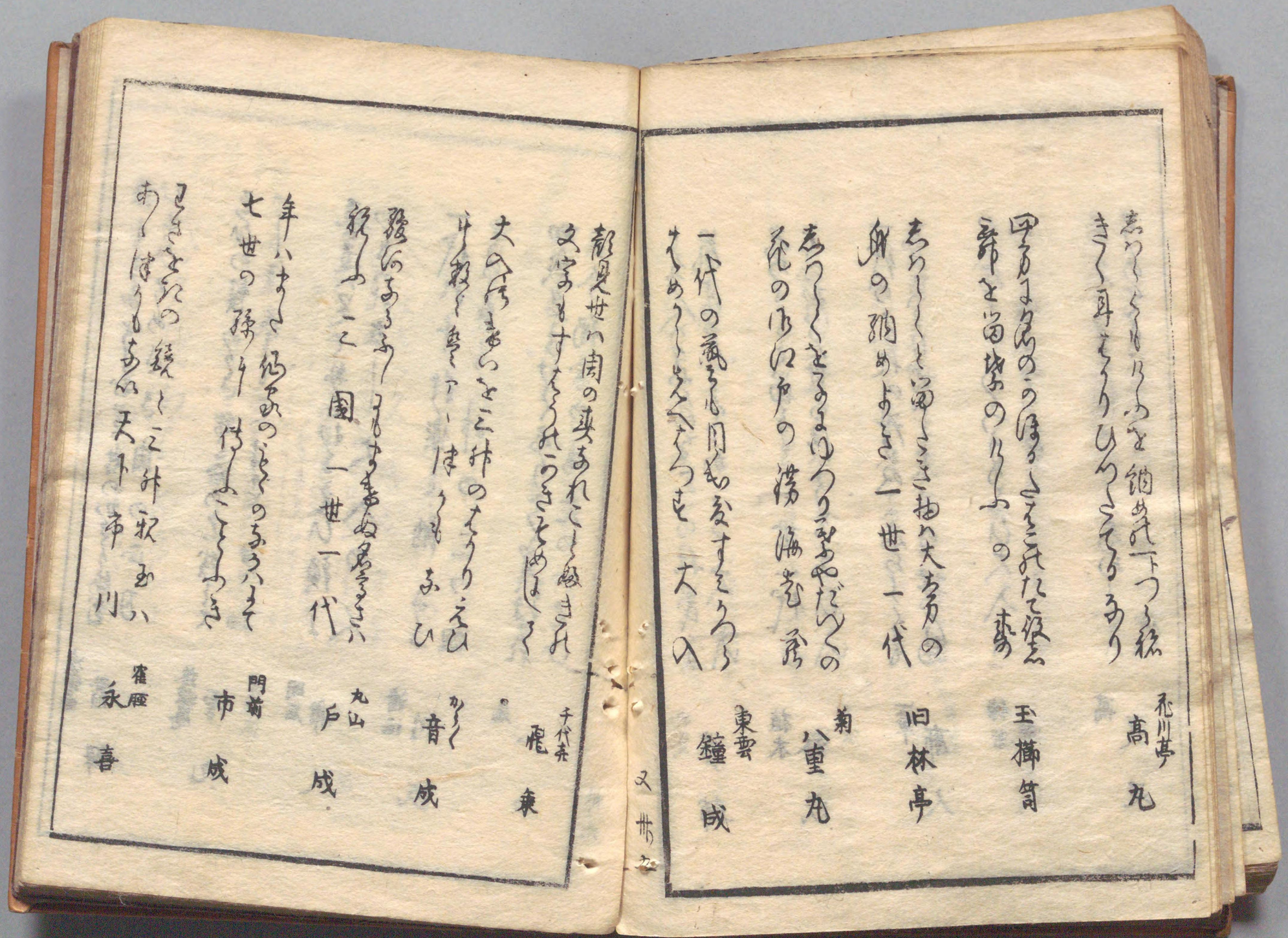
一代のそれの度数よちくくも　一筆　廓人
変ぬるけ地ゆ太刀の揚物

名ぬをそあくくもひ大入ハ　徳若　春成
いよ飾義の鼻のさまよ

角くくを素袍ゆあくくちくくハ　萬
ちめそちくくき一世一代　支足

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用



高丸　飛川亭

玉櫛笥

旧林亭

八重丸　菊

鐘成　東雲

又世

千代丸　飛乗

音成

丸山　戸成

門前　市成

雅歌　永喜

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

誰もこゝろをしむ若のかゝり海老
むもひとめさき 肉の 正月　凌雲堂 霜解

名ひの餅あるき 年暮の名残とて　落穂庵 厚丸
一ほ 氣もこゝまと 見物

藝道に足て拙きむるえひ須は
かゝれた立 ― 大入の人　明石 浦人

一代は千秋楽と 紙 ゝる　清池 川成
その重も 外の 三ッ組

功成名とけゝ去りて其ほまれ　鬼 一口
古今獨歩の海老の一ゝる

ゝゝも ゝ ゝ 南り役者と 俳諧ハ　布留 仲道
赤夫 南雲 小秋　西戒

卿退ゝ千秋もうけハ五代目乃　霞 関守
五湖 ゝ ゝ ゝ 舟 ゝ の海老

大入の海老の名 殘の 宝 万歳 逢義
殘せゝ 跡を ゝ ゝ さ せる なり

市川白猿世一代の舞納 伝ゝ ゝ ゝ
秋の月 ゝ ゝ ゝ

白猿の一世一代を

松友亭長綱

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

帰花雪義経　三立目つゝき　鶴太郎　六代目　市川團十郎

東夷南蛮小狄西戎柳多舞迅の武者。まつろ出るる素性。
源義経が。従弟頼朝の熊井太郎とて。拓栗二年二月めの御
新参。まいの熊井太郎とて。弟手ずりて十八才
まつのこしも十八才。あんところおさまりぎさわひやござり
はせぬ。りふ海を世を二世へ取ぎり切て胴世くこんでき
うの名の桜。家の紋物よ。くこ。まつるの面のわるつき物ぢい
上世ふぐ。ぐる拙公家様顔よいでく金冠ハなる手すのりん
ゆもくひこ。こ。ぬくこを。るぐなる。れ袖の見ず山
六代つ。るるの兄。二井のりんの見かごへ一ぐこうて五岳と
知ゆう。こう里天まで。ロ戸のこんぬき万代不易の毒
こせんりつゝゆとゆうやまんて。とうす

○ちりぬるの大太刀三井のりゆづり時ぬ
足柄の山をなぞりハこれ逢の神のめぐりん

都こん世を一世一度の母さめ太刀　大山　白鯉館　卯雲

大形成能入り

江都の花名ひの数をもなつて居る　盧錐館　長雄

元三　国一世一代

人の目を拭ふ。ふ。ふ。

霜月にうふあれかしとてさたうたる
志ぐるみたらぬ　一世　一代　水魚亭　魯石

大太刀八子よゆつり繁の門かたう
志めて貫つふ滅茶の松すひめ　桃源亭　如仙

名もさうく家よ伝りる　祝ひ　一世　一代　旭堂　烏帽

動くりとなるの　一陽亭　周朔

市川のみなのとなれい頼朔の
大ひらぬ　ままさう　堂ろら　雇声楼　英卜

祝ひの　の秋楽を志ぐくと
まつてのらつふてつぐもなひ

仮名ぶすの時をとうくんそのためふ
みまそのの後のほうきぬ　大入　赤坂　朝立

仮名ぶきの八百八町　八百よろ川
秋さくとうとなりの　祝ひ　唐玉堂　廣九

見仮志ぐくぬ人さくなれ江戸市川と
動くくも他生のくくもんの縁　森雨亭　暁雲

白猿子一世一代を勤て仮生
天く鯨長くと使待る是天の乃こと
小勝くり摂と立湖ふ故くりをなり出し
旋風ぐをなくる　真龍堂　甲岳山人

仮者ぶめく春くう志ぐくふ
なりて七たつとほくぶめ　すせう

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用

○そのほとゝぎすと初ねとゝぎすあてゝ実ゝ成
あらぬ海老茶筋あらぬ色ひ茂　桃花　光就

色ひ茂をゝくるゝくの山地ハ
柳いらゝゝり花の江戸ッ子　松鼠菴　八橋

○
ちらゝゝてたゞ実の張合金
つらひでのあり　株ゝり千両　春日　永喜

○
枝ゝゝやあるまいとかゆみを葉ハ
お江戸市川ゝゝいけんふ門　浪花　胡弓菴　正甫

○
市川のたたけいつもとの種に
なるひいなゝらぬ色のつゝひ　柳葉　壁塗

水ゝぬゝと甚角の河遠ひな
駅井戸又井戸續ゝゝ川代　芳志

○
牡丹ハ日まゝかゝ桟敷をも
かゝゝゝ見ゝ花の祝宴　高盛

市川の色ひゝの株の早咲ハ
ゝゝあゝ二度のかけ鳥愚ゝ小　波高

○
色ひの色いそのゝゝゝ
だゝゝゝ江戸のかゞゝゝ　大公金　風呂主

かゝゝゝの月ゝも市川ゝ
ゝ日ゝのこゝゝ色ひ茂　緞ゝ堂春長　柿芦　赤比等

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用

四方哥垣連

○
市川の源一世一代記　絞時方
貞光もあり山地も　峯高丸
志ゝや[illegible]ゝそゝて初[illegible]する人も
初めさされるも花の江戸ゝ　紀楽人
名勝ごく人もこ井の級所
すこゝのゝすゝゝゝる大入
　　鉦衛連
巣しい花のあつまおれを　莊一葉
三井所とこそなりたやの図
　　大原久知位
うさゝゝの世のさゝゝゝ迷ゝの
むさゝゝの月男　一之

名ゝゝゝ芳野の山と[illegible]　天宮笛
ゝゝふゝゝんいを　嶋　居
○
物ゝゝれゝ義ゝゝ義ゝのゝゝゝなゝゝ
今ゝゝゝ

○

案の魚にかまくらぬ燃の緑かな　泉舎

雀とりけるに瓜と梅とハ行ぬ　百静

いもを焼しや吉原の煙のよりの緑　砂上

雀立けるに沢ハ行りと世を冬田面　百鯨

隅ちくハ咲てかしの冬牡丹　巴水

枯はめし中ふきくハ桜　青奴

鶏子貸ぬもむらぬ海老花穂　濟川

天を知る鯉よい大悟の沢中代　菊明

新場連

○祝月齊白猿一世一代　華溪老人

燕都名譽市川家風外郎芳薫四海弘通

暫之一声天下英雄子〻孫〻永傳勲功

○

ちらくと夢や冬〻の冬籠　傳光

づらくと物ゝ枯ぬや江戸の雀　鬼七

○

門つくり見ちくく今ハ春まつめ　水古

ゝう浦世とちゝ子を冬竜　桃圃

家咲の梅の白しや江戸の花　壽升

ゝゝ濃ゝ柿の素袍や冬竜　雨里

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

初あやめ連のもとあらいあこうく

岩井粂三郎

市川新之助

六つよ
成りる
孫の
初あつこと
よろこび仕りて
よめるの

市川新之助の
御はたく
けうり鯛を釣れ
うきれたらうの
はつ名ひく

六代目
市川白猿

巖嶋雪顔見勢

二立目つゝ続

源太丸　般若孫六　市川新之助

東夷大王蛮小狄西戎天地乾坤の都市川かゝる役の恵門ぎる。城内の不動のまどをとやーやどらいさるみはらく大きる極ぐ。ふき出と小侍とおもかりとゞ。ア。こゝろみの蔵人。百物語の化物あく。遠つぬくくるみのまん中とおぐろてけんぶ。空の門。梅の早咲初もとく。使ぐもるへとも出ろも素人酒二位頼政ゞとてあるもとらかるとんぷくつーやとうやまてやまつ

梅まろ
ちろくを
仕る

豊年の貢や梅ヶ枝の花　烏亭雪馬

年言ふらし　みくの嶺　白猿

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

一世一代の俳優を

壽

雀一羽五湖よりみるの月　蘋響

はきもの水をとぶて登鯉　其國

雪ちり花は　はるもてり　みるの玉梅　一得

其儘年淺黄　所市やみる義　鷄賀

是ちりハ東夷南雲　紙ゑ小　文呂

五十年あるり通しるる　火桶代　葛呂

市川白猿一代の英雄を一子菊之助
はるるる丙辰の新見セ一世一代と
いるるるつるむるあるるるるるる
ゑ猿年かえるるるる

洞年入獅子の　晉子堂

あるるみやみるの　大虎

牡丹

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

一陽子玉をゆつて名九州　甲府　栢井

花雲は行も涙ゆるる玉巾　栢児

功成名ゆ遂げ優しみ義　可春

○

雪霜や中にも松の大丈夫　左来菴　選羅

子の月の是を大丈程かれ　盧笑

滄海ゆ大立者の鯨こそ　大熊

是ぜひとせむ江都の餓鬼　此女

誰目にも真鶴や　竹銘

赤ゝと六月や梅しろ仙花　女　里あや

平文

名ゝ○ゆゝゆゝゆゝ涉美　錦江

今ゆゝゆゝ雪ゝの菜の湯代　杜若

○

鳥ゝゝゝ宵りて水雪の白眼代　中車

冬ゝ牡丹霜の筋隈のこゝろ　錦孔

○

つゝゝゝとの霜り咲　薪水

間の代の正月あれゆゝゝ江戸梅　新車

めゝゝゝゝゝあかゝゝゝ酔ゝ海老　梅童

一世一代を行ゝ親方ゝゝもの玉物

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

雪ハせん屋は　馬十

○

叶乃の筵ゝゝなれ　冬

氷　何文

霜月や拂ひぬ庭も千代の友　茶蓮
有うらく弁納りり沖の楽月　梅旭
蓬萊のうらやましくも栄かな　茶升
老せぬや用さくかちけぬ書の松　茶山
子へ貴よ十よ万あや恵はの秀　春曙
星のうへまさ永うれや子の日　湖月
きりてさくらや米の　玉猿
爺うとしひし吐如河を弐　吉之助
父するものうまく法者ちまるの
孝恵の吟孫のありうさよ
拂ひけるしあやうたしや周の春　三升

年こ病の多根の恩や多牡丹　升之助
菓子花やいろもきこしの春　史蔵
沖ろのあらあ酒や　翁　鈴　國五郎
都見せや大入船のくく　待浪　團化
白貝粥や鮑坊ろのうく　交り　栗蔵
中数よまじるうくみの雪　林弐　拂蔵
うめくやくらの名鶴の時の彩を　虎蔵
七尺さいくはさくぐ
○
ざこの舞のうれもこまれ
恵ひよあやうり鋤しあり那　仙蔵
稜ろの孫ろも寄や水二　氣波　万蔵

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用

一場よろづ〻と数をかけ祝ひ
ろも千あまりけて　万　面

櫻川　慈楽成
花咲　知恵成
新　友成
墻東亭
永楽亭　通宝

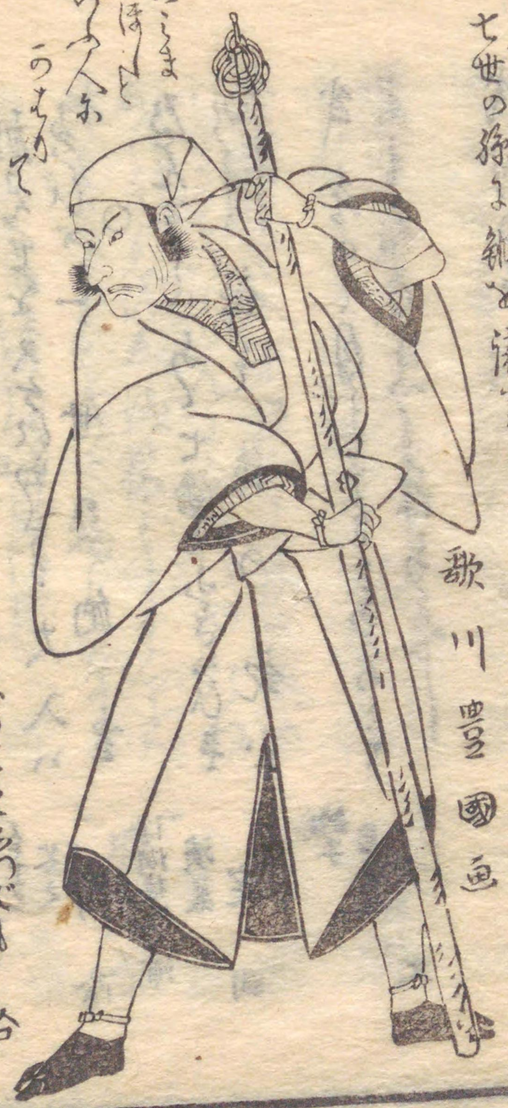
江戸東八百屋までもつゝぞべし
三升　もぐさのあつさ名残い
名残として入さ行つゝ木戸口ハ
こまものもんよ市川やたろう
ちゝさゝ武者絵ちゝ物とするゝ
外よみまもの乃一物もなし

○一切素使のちらしの変ハ
ものしらあぐ

月は星かゝやく家の三つ井乃
銀もゝ　ぐく　等　ゝ

四方連　自五庵　若　持
富士ちゝ山をふりゝ人物ハ
ゝゝ　こ　国　一　世　一代
都見せをスケに出ゝ大入ハ　メキカン　芥之　掃　除
あびが　一　世　の　物　音
○
乃ん〻ハ　ゝ　七浦のふさ色　諸物横連三浦　淡義　定　岡
ゝゝ　鶴そ　海の　祝　玉
武蔵の国　銚子　目出度　天　久
高ち花乃つゝ祝ちゝべし
浅草の市ちゝ市川乃　松坂　音　頭
あつしハ〻〻の高り物　高

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用



狂言堂真顔

歌川豊國画

狂言堂真顔
ほんとうの人物

人は年齢の高低と性質の変り
なんてをたひて
みな代をもあり成るも年の其こころみ十七たんの
今

四十八

鼻は面の西月を面の鼻とし
猴猴の猴牡丹は花の親玉猴は人の級の鯉魚かしらも今
とも言ひの濱ちのごれ仙魚の変りを
樂しんとして結び別涙
鼻の人生を出して鼻の扇
猴猴月一夢猴ときこへるものは
毛扇人の仇として市川の舞を
獨出すとはまことに出の歌をはめる大和尚の頌とゆび

十年もたつの信者の後
五十ハ郎を出 酒 と

寅年享和
江戸住

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

○ 師走まくこうやの時じの三立めハ
能坊ゑの体も芸者と白猿芸義
物ゝてんしゝ相撲のごく所新入せを
こちらのこでゆ花咲く大入江戸
市川の金箱成ゝやあるゝさと世代
乃まつしひを芸をせる
日数さへ行ぐ者ゞゝれ新ゝん せゝ
以呼つゝもるゝくとふけゝ

○ 西の蔵前ハいつもさゝて出ゝ
引船の見物ハ日毎ゝとゝ
別角に筆をすゝる

赤根元金進 亦仕良 當理

堺町納權 元家

○ 鄭義ハ小野小町ゝ桟敷まて
ゝんそゝ

追

○ 藝道ハ郭の軽重と立 ゆゝり
名称又ハ芸の物しを なゝて

浅草辺 上毛大間ゝ 東田舎丁 雅

白猿ゞ名称ハいとゝまれて 亀ノ 長余
今ゝゝくとゝあゝくもゝる

白猿ゞ名称ハ高麗に江戸中の 由舟 有人
人をゝゝゝまちゝつさゝ

白猿ゝ引ゝ物語ゝ玉琴乃 茅原 細道
つゝゝ立ゝるゝふ の見物

相撲と時代をゝつをまゝゝゝ 坂月 待兼
物語ゝ家ゝ伝ふゝ

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用

[illegible]
うけ納する公家要もかり　　貫川厚記

貢ものゝ業を納めてゆく末を　　松梅亭廣九
作るものけよる代の蓋　蓋

白糸の色紙の蓋の出来秋ふ　　夏引糸人
入いこ作たり高しれぬ

遠うしんとものゝ色紙ちをさをみ　　一丁羽狩
東夷南蛮小秋　　西戎

○一世一代の見通し桟敷夢初中ハ　　立川仲澄
市川へ行ゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ての
狂楽堂ゝ羅漢寺　安堂まして

○市川のなれひろく西ひ巻とゝハ
南北の小四ゝ中ゝ[illegible]の設い
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
乾坤手ゝ[illegible]

今ゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]雪ハ報　　葉江亭二葉

○
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

撰集者　談洲樓鳥亭焉馬

モウ　百年も変年
[illegible]ゝ田屋

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用

○俳優の功あり田屋の名をとゞめて
舟ありそくへき時をえひ　義　東溟堂早文

○白猿ゑ一世一代ゑ
ちくしくのわさをきゝ伝れと　筆耕　湯上線子成

ぞふりめてをいうるひう白紙ゑ
壽くゝをかくをうりあり　彫工　藤田金陸

○
ちくやゆる弾ゑ拍るてゝ梅木の
花のゑ江戸の性一乃ゑひ

板元四日市上總屋利兵衛

白猿の一世一代さるゝ
うくをいらゝ幸にのこゝをべ

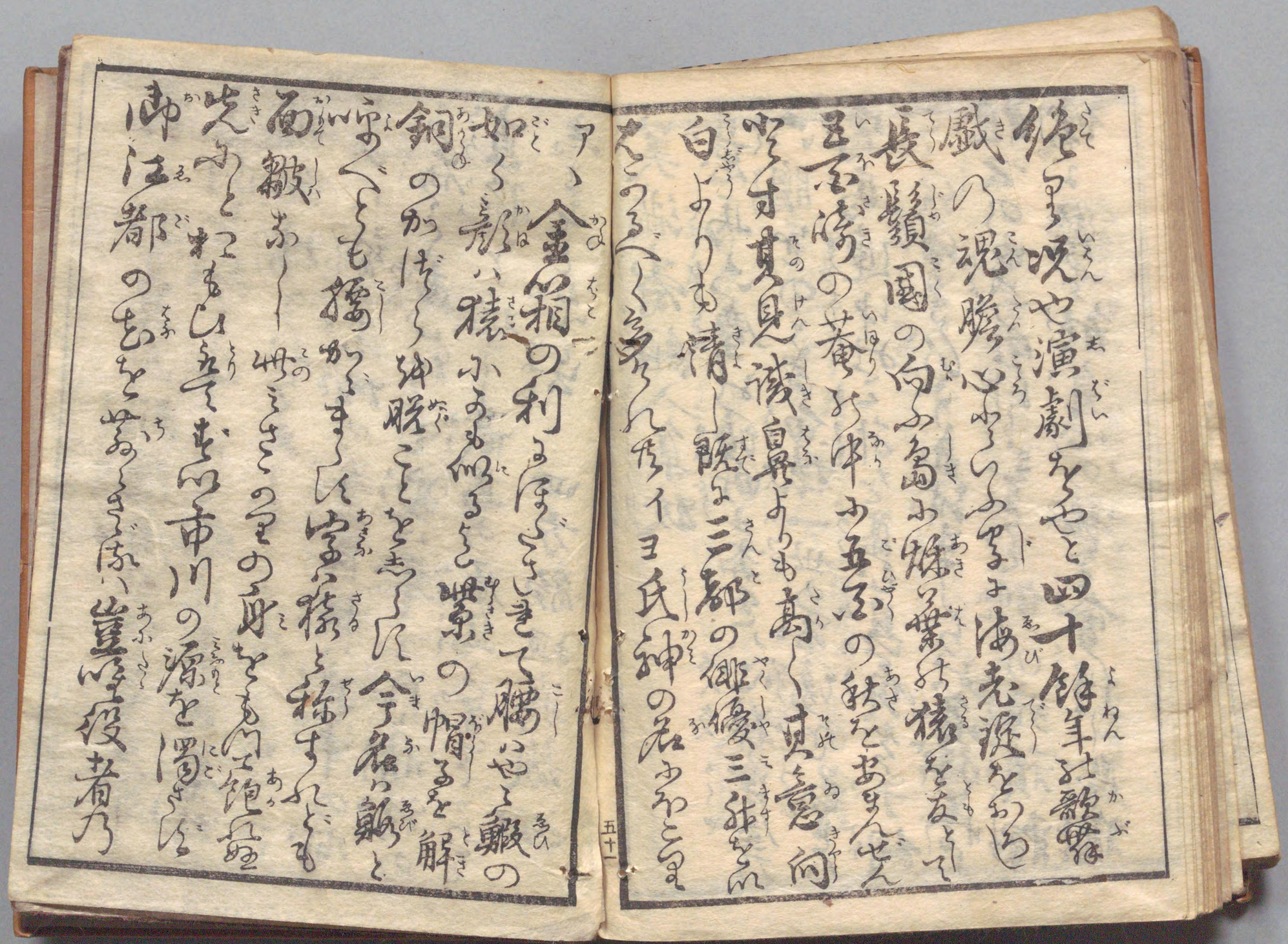
丈尾

美満寿組入集破

意馬心猿楽屋乃
六塵を境町ゑ奔き八心猿楽屋乃
六臆をのゝ者白猿一世の未傷を勇を八
馬馬連中ゝ弟を驚き見頁ゑ手綱
こゝ伝ゆるゝ引ゝ西林ゝ
祖父の曳づゝ名猿ゝ
衢ゑ凝ゝ能息心の駿を會得學猶

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用



国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

208
151

親もの考へん拓隠者の視むなるべし
さらを知る人ぞ多き春の岩ハ間巖樣の
滝幽樓これを思ふべきてゆらめむ
もの心の誇高地の香を帰我ハ其中の間
ゆ在るく或ハ行くと或ハ拳て独り精樣の
真顔を揺し識馬の風馬ふてゆるを
思ふと云 四方歌垣真顔

平岩寛政九月
己未十月十日
愛度日

出版

江戸日本橋四日市
上総屋利兵衛

国立国会図書館　美満寿組入 208-151
ガラス使用

208
151

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用

国立国会図書館　美満寿組入 208-151

ガラス使用